

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 佐伯 昌俊

本研究は、病棟における看護職と看護補助者（以下、補助者）の情報共有の推進において、特に重要な要因である補助者の看護職に対する情報共有行動を増やすため、有効な介入方法を明らかにすることを目的とし、まず質問紙調査によって看護職全体での補助者役割の認識の高さが、同じ病棟の補助者の情報共有行動の頻度に与える影響を検証した。次に、看護職と補助者を対象とした Pilot 版介入プログラムを作成し、試行・評価し、修正ポイントを検討した。そして、修正した介入プログラムの効果を検証した。上記の検討により、下記の結果を得ている。

- 1 病棟の看護職全体での補助者役割の認識の高さが、1 年後、同じ病棟に勤務する補助者の看護職に対する情報共有行動の頻度に影響する可能性が示唆された。さらに、その影響は補助者自身の役割認識を媒介することも示唆された。
- 2 看護職と補助者が補助者役割の認識を共有し、認識を拡張するための介入プログラムを開発した。プログラムを試行・評価することで修正ポイントが明らかとなった。
- 3 本研究で開発した介入プログラムを受講することで、看護職と補助者双方の補助者役割認識が高まることが示された。双方とも相手職種に対する 4 つの情報共有行動の増加は示されなかったものの、一部の情報共有行動が増える可能性が示唆された。

以上、本論文は当該病棟の看護職と補助者が共に、病棟における補助者役割を再認識する介入プログラムを開発し、このプログラムを受講することで双方の補助者役割認識が高まること、及び双方の相手職種に対する情報共有行動が増える可能性を示した。本研究は当該病棟に勤務する看護職と補助者を対象に効果的なプログラムを提供することで、職種間の情報共有、ひいては職種間協働に重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（保健学）の学位請求論文として合格と認められる。